

「布マスクを贈ろうプロジェクト」ご協力ありがとうございました

分散登校も明け、徐々に学校生活も「通常」に近づいてきました。あわただしい中、布マスク寄付の呼びかけに協力してくださった皆さん、ありがとうございました。全部で252枚ものマスクが集まりました。自宅に届いたものだけでなく、お家の方の職場や、親戚のお家にまで声をかけてくださった人もいて、活動の広がりに関心の高さに驚いています。これで活動は一区切りとなりますが、生徒会として今後も何かできることはないか、考えていきたいと思えます。



6月24日(水) 17:00～ (株)トータルデザインセンターにマスクを届けに行ってきました

案内していただいた応接室は、封筒やマスクがあふれた箱がたくさんありました。すでに1万枚を超えるマスクを全国の児童養護施設にお届けしているそうですが、まだまだ送られてきているそうです。そのほとんどは個人で郵送されてきたもので、少し拝見しただけでも、埼玉県や北海道、まさに全国から集まっている、という感じでした。

トータルデザインセンター様は、以前から児童養護施設の子どもたちにお箸を送るプロジェクトを進められており、その関わりの中で施設のマスク不足、そして政府支給の布マスクを必要とされていることを知り、このプロジェクトを企画されたそうです。児童養護施設は限られた予算の中で、多くの子どもたちの生活を支えています。そうすると、年齢にあったお箸を用意することや、新しいマスクを準備したりすることは、現実的に難しかったり、後回しになったりせざるを得ません。そういった施設に、お箸やマスクを届けることで、大きな変化は期待できなくても、子どもたちやそこで働く職員さんの心が少し豊かになったり、余裕がもてたりするのではないかと、という思いから活動を続けられているそうです。

代表の上村さんは、今回集めてお届けしたマスクを見て、とても驚き、喜んでくださいました。「同年代からの助けはとても力になる」という言葉が、とても心に残っています。その上で、このお箸やマスクを届けることそのものは、きっかけに過ぎないんだ、とお話されました。このプロジェクトの主旨は、このお箸やマスクを届ける活動を通して、児童養護施設で生活している子どもたちがたくさんいること、その実態を知ってもらいたいんだ、とのことでした。岡山県内だけでも450人、全国では3万人もの子どもたちが、それぞれの理由で、施設で生活しているそうです。私は自分たち以上に大変な思いをしている人がたくさんいること、その中には私たちと同世代の子どもたちがたくさんいることについて知りました。また、自分たちの生活が、当たり前ではないことを考えさせられました。小さなことでも、相手の気持ち、自分の気持ちを明るくすることができます。まず私たちにできることは「知る」こと。そしてその上で、何かできることはないか、募金や寄付も大切な活動ですが、相手の気持ちに寄り添った支援はできないでしょうか。冒頭にお伝えした通り、全国には温かい気持ちをもって、行動される方がたくさんいます。私たちは私たちのやり方で、どんなことができるか。今後とも、生徒会活動への協力、ご意見を願います。(生徒会長)



↑ 代表の上村さんと一緒に



↑ 「はしながおじさん」のプロジェクトについて



↑ スタジオを見学させていただきました。



はしながおじさん 子供たちに笑顔をお届けるプロジェクトについて
<http://hashinaga.jp/> 「はしながおじさん」で検索してください(..)φ